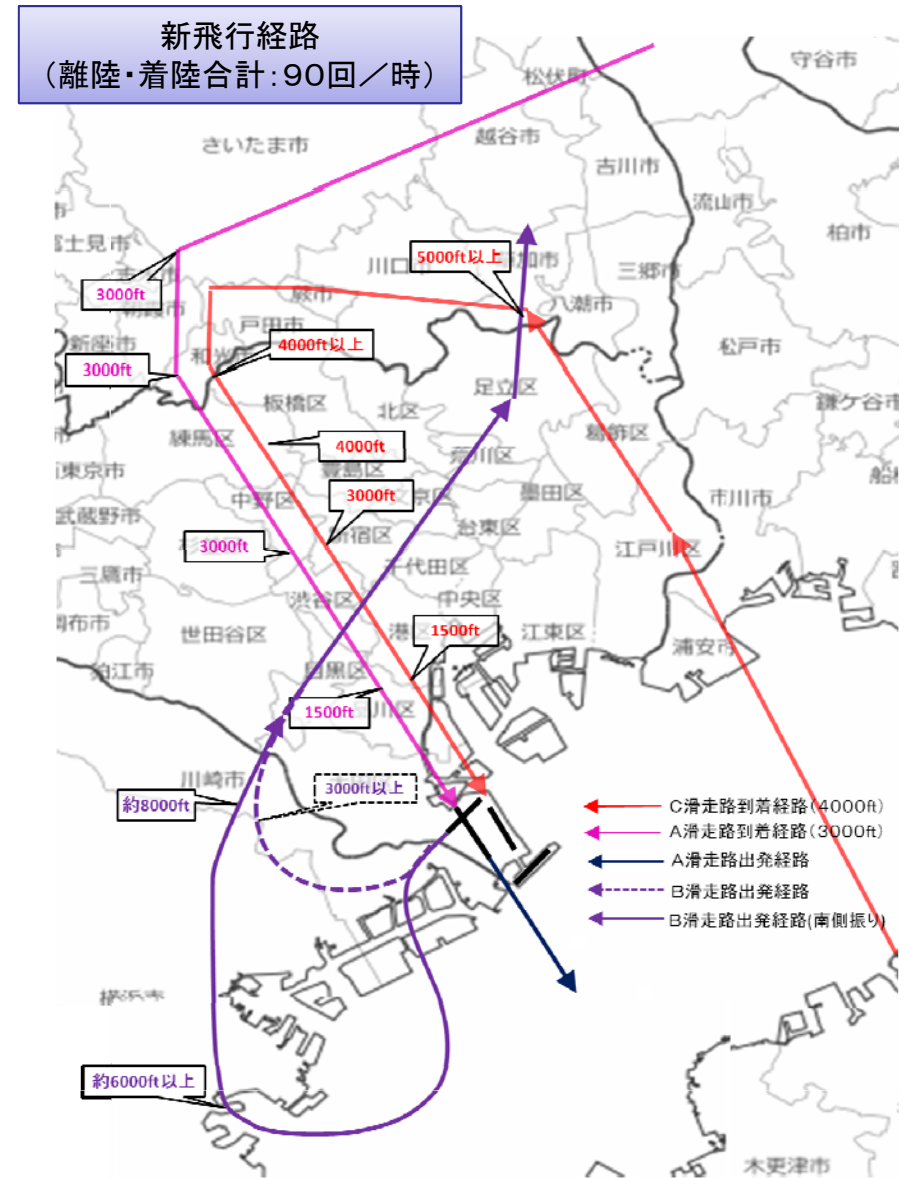
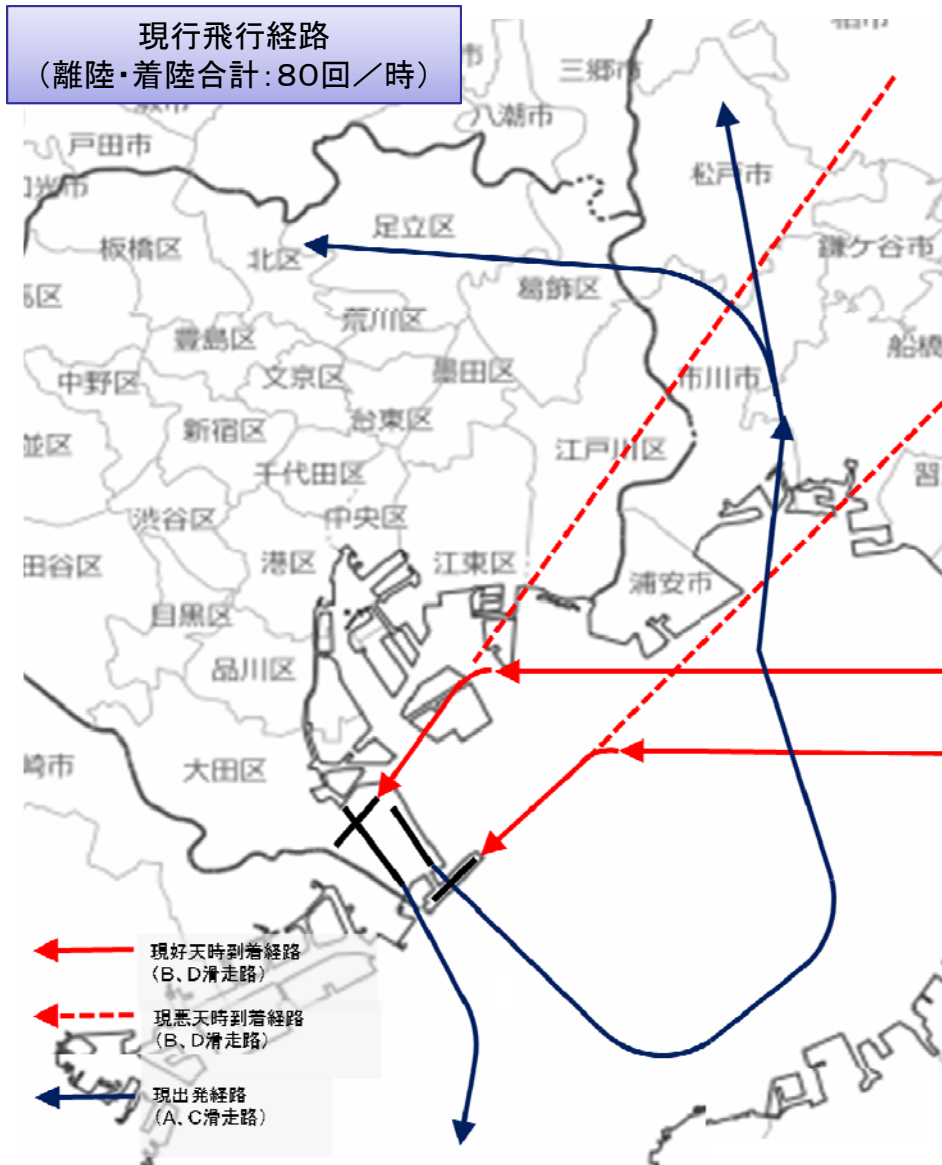


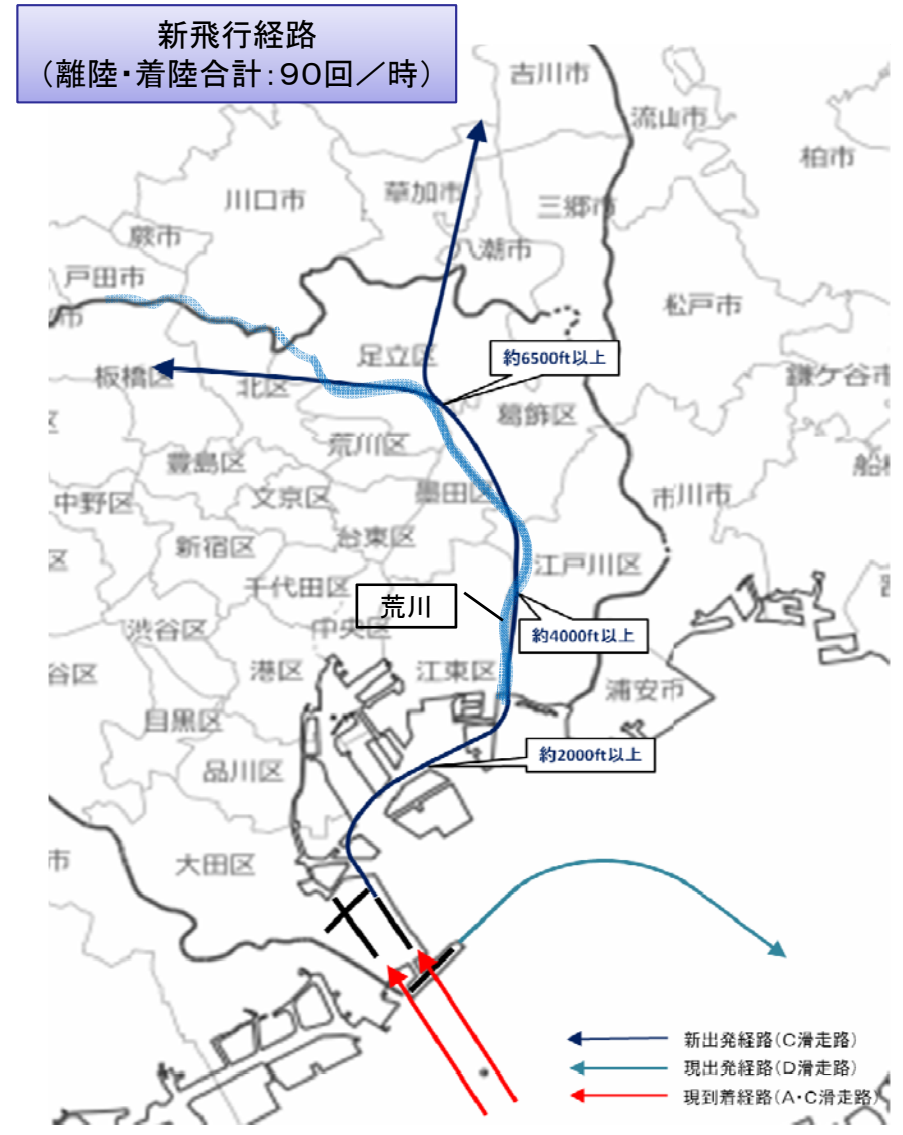
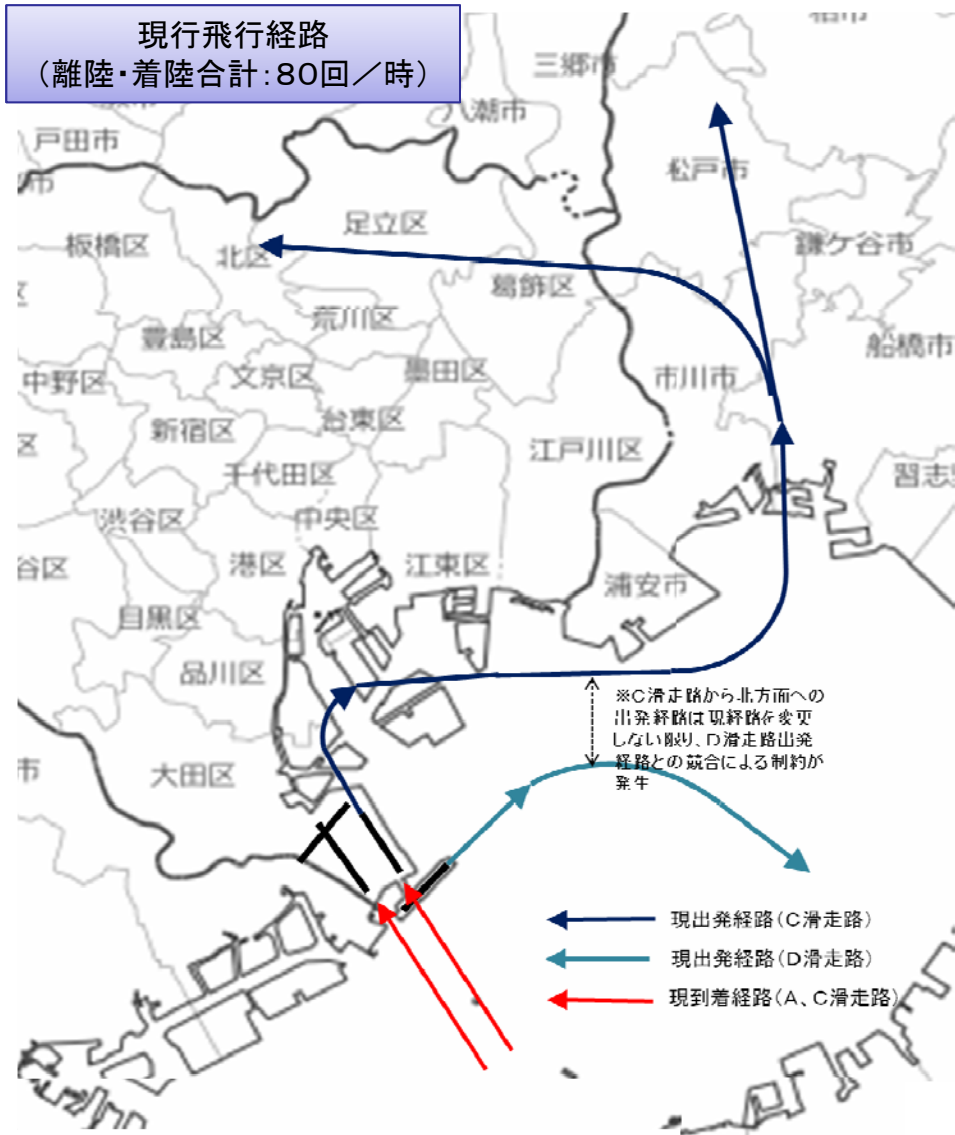
首都圏空港機能強化に係る国からの提案について

国土交通省 航空局
平成27年1月21日

【羽田空港】滑走路運用・飛行経路の見直し案(南風時)



【羽田空港】滑走路運用・飛行経路の見直し案(北風時)



【成田空港】管制機能の高度化(WAMの導入)

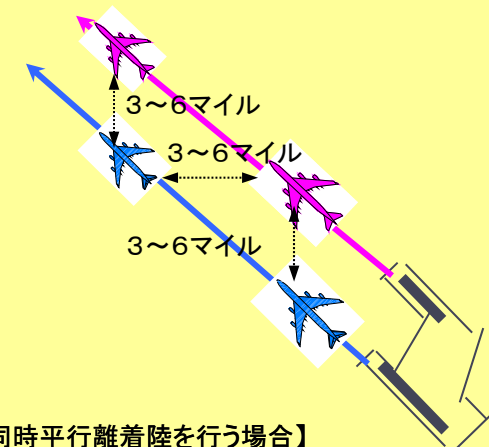
○ 2014年度から、より高い精度での航空機の監視が可能となるWAM(管制機能の高度化に必要な監視装置)の導入により、最大時間値68回を達成することが可能と判明(空港処理能力拡大効果は約2万回)。

- ・ 成田空港では、2011年10月より同時平行離着陸方式を導入。
- ・ 管制機器の高度化(WAM※の導入)により、悪天候による低視程時においても、管制官が航空機の位置を精密に把握して同時平行離陸を行い、2本の滑走路を独立に運用できるため、最大時間値68回を達成することが可能と判明。
- ・ 2015年夏ダイヤより実施する予定。

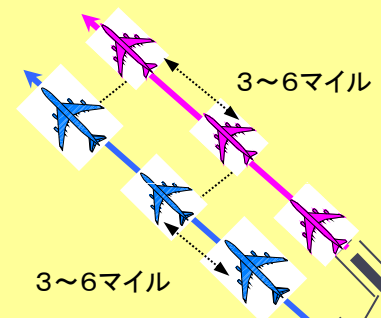
※ Wide Area Multi-lateration : 管制機能の高度化に必要な監視装置

同時平行離着陸のイメージ

【同時平行離着陸を行わない場合】



【同時平行離着陸を行う場合】



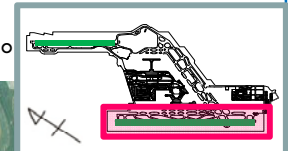
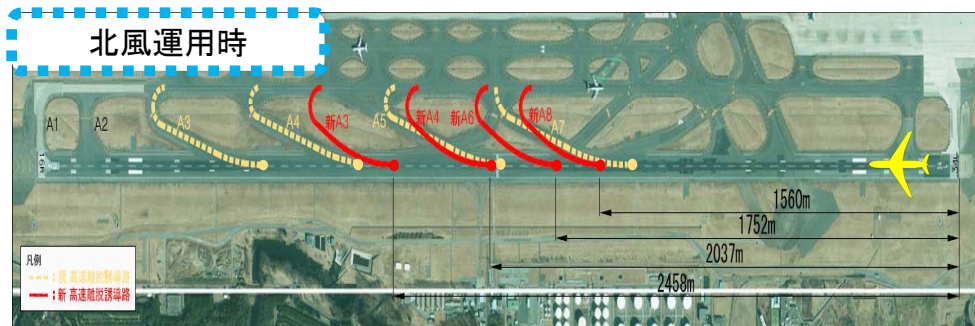
※北風運用時の離陸の場合

【成田空港】高速離脱誘導路の整備

○ シミュレーションによれば、A・B滑走路における高速離脱誘導路の整備により、滑走路占有時間を短縮できると想定され、WAMの導入と併せて行うことにより、最大時間値72回を達成できる可能性がある(空港処理能力拡大効果は約4万回)。

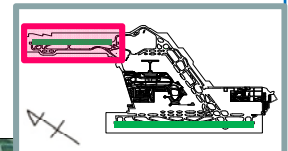
A滑走路における高速離脱誘導路の再編整備 (時間値+2回)

- A滑走路において、高速離脱誘導路の取り付け位置を変更し、到着機の滑走路からのスムーズな離脱を実現。



B滑走路における高速離脱誘導路の追加整備 (時間値+2回)

- B滑走路において、高速離脱誘導路を追加整備し、到着機の滑走路からのスムーズな離脱を実現。
- 将来的には、地上走行を行う飛行機と輻輳させないための誘導路の線形改良を実施。



※ 時間値向上効果については、施設供用(最短で2017年度頃までに可能)後、運航実態調査により確認が必要。
 ※ 最大時間値72回を達成するためには、別途、駐機場、旅客ターミナルビルの整備が必要。